

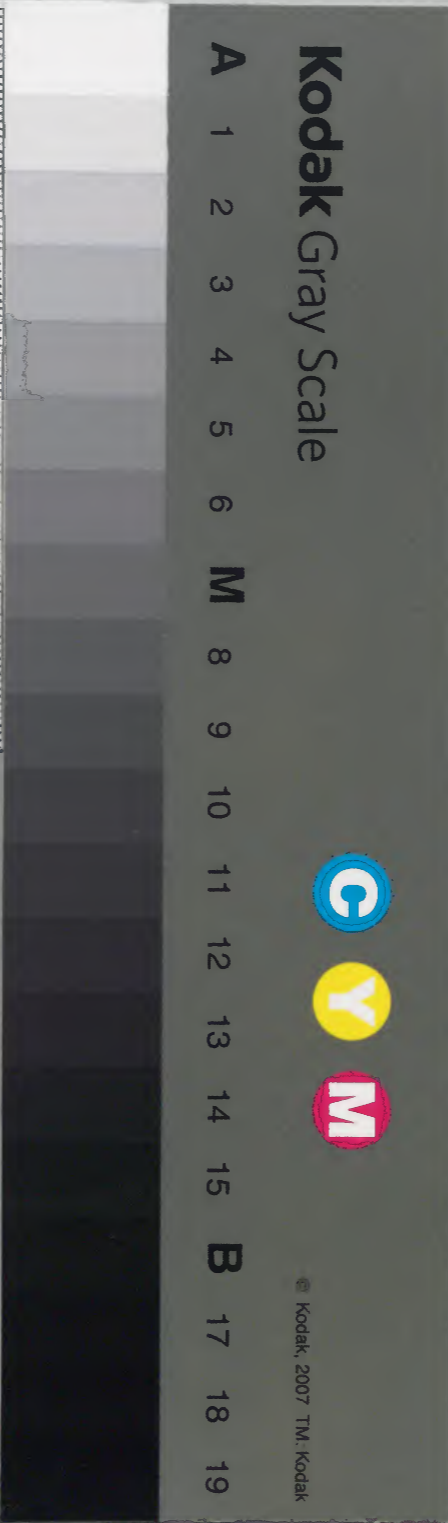
續談海

十六

和書門類			
五〇	一六	九三	八三
冊	架	函	號

內閣文庫			
五〇	一六	九三	八三
函	架	冊	號
和書類			

內閣文庫			
番號	和	8633	
冊數	50 ( 16 )		
函號	150	93	



寶曆十庚辰年

明治十一年

一月十日 官内郷殿 鹿鹿酒湯 山後殿

一月廿二日 尾張中納言殿 江守 志 涉 掃 任 符

一月廿四日 西條養柳 京 廣 福 友 人 云

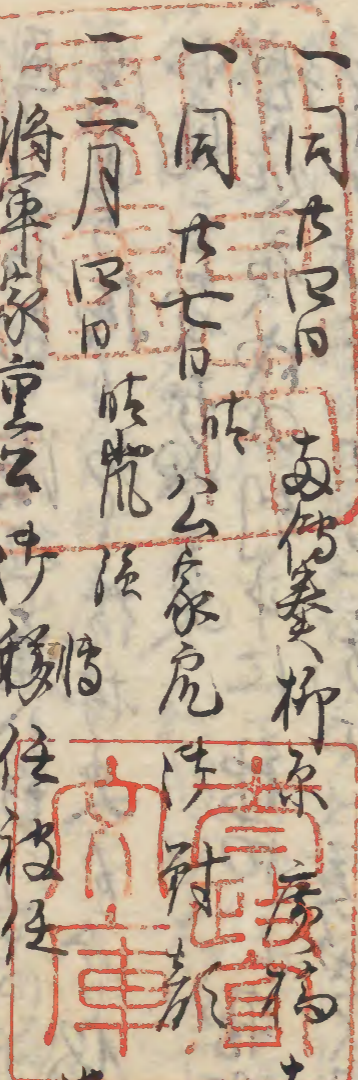
一月廿七日 公家 虎 涉 對 新

一月廿九日 將軍家 重 云 涉 務 任 被 任 龍 大 作

大御家 家 結 云 涉 兼 任 被 任 右 大 將

涉 尚 日 出 任 一 而 將軍家 尚 善 一 小 役 人 尚 善 方

素 袍 忌 用 也 因 十 六 日 山 後 儀 涉 礼 中 一 西 一  
一 同 日 今 曉 七 時 亦 有 亦 板 今 井 谷 大 元 中 人 西 本





渡人二ツ成和泉橋焼落去小豊徳所柳系子  
通り新橋寺下久左丁富松所焼系山門  
了喰所橋山周明丁村松丁立花丁小流丁河原  
と橋保西川物遠山門内河原丁小流丁通新  
石丁東と不徳小徳丁所上河本白浪丁三丁  
石丁本所三所め焼所裏河原石徳室所三  
河原とて行智通り是述不徳焼七口  
日本橋際とるん

一二月四日お火赤坂今井不海際

(中平物) 中三丁 中三丁

一因二日お火徳川お不海際

中三丁 中三丁 中三丁  
一徳川お不海際 中三丁  
中三丁

一在大事と付人死并か橋屋多不焼死事致知以

一高正月より多摩寺一二月甲一多徳河二日六

一西より一河原とる多徳河二日六

一二月七日お家危焼北を焼後焼焼一か多し

一火候如く如昨夜お火大村と南門三位橋右

一石丁三丁目本徳河原奈の打火干上焼焼役者も

一教火と道一か老ふ兵出芝右相人く所人七衛く

一二年人申り兵官不人兵も音之は焼

一焼焼は焼り兵候如く  
一焼焼と捨り来とら古山門大屋く一月のさ人物  
一宝曆とすは後ら辰の年焼て見一とみろく十年  
一是ハをたよりとす支出く焼十年とす

徳田町下きとりの火夏焼出に今年も奇者中  
中町の子徳小あそびに創事と云はれは焼出は其別  
小川町と云はれては町の柳系と云はれはあり  
焼出にて柳系と云はれは焼出は其別

是年と申すも後う辰の年をいふもめをみる十年  
車ゆい永代までと申すに焼出の後の事もある

是の刻大橋向天や院車ゆい和向の事  
一山に焼出は

ん渡せり民士も所をみるなりなり  
右たり火のあの中のをたむじに大焼出は其めあたる  
ふりりと稲倉の焼出は又火焼出の事もある

田園所  
焼出もされし子焼出もこの所は其事ある  
見守る所  
親も子もこの所は其事ある

やけん場不効する別  
あつとてその事法と焼出も効する火えんも  
石知事  
焼出は其の事ある

大丸丸  
人々の大丸焼と云ふはあつとて其事ある

坂所吹や所  
つゆれりる建るるむら坂所大柱子とせし風吹を所

永代大橋  
永代もあつたなり一の河ねやらん命あるは焼出大橋

小倉  
大焼のつれあつた事あるは焼出は其事ある

またと所  
またと所は其事あるは焼出は其事ある

またと所  
またと所は其事あるは焼出は其事ある

またと所  
またと所は其事あるは焼出は其事ある

またと所  
またと所は其事あるは焼出は其事ある

第 山門一時焼

よりくをけりるくくとゆく  
この上高位の来ぬると侍りに  
かく保秘をりて了ふ

百 東明驚駭声

そ人のたはけよをいふ田村いとの  
首尾もよけれりまゝいあやう  
一苦方ある

年 雖有水足下

うとのおにをいとされりあやう  
くして叶さぬ又水うれてまゝ  
らく夏あめり候

目 三階成無庵

たぬくまゝ人と交り樂まんとされ  
とそれごとくふまゝにあはれ世序  
の生にまゝふ

是の句地をを院東明和尚の夏ありと階の二階と  
焼しる

焼盡江難数千斬

東明残念入火焰

京客 這々北風急

逃入天奏成厄女

一月九日夜半也中弁牡丹屋敷の火二三物焼

此序ゆれりの勢を倒捕出られを

もくおれ牡丹はねし牡丹の代りに

勢を北らんぞ

か縁を被褥子被て牡丹は牡丹もさけて

勢のらんぞ

か下板湯花もあててまあひちられ

牡丹屋敷の柳まのらんぞ

新六火せん 新助略火焼大換

まゝ野原焼けて人れ火さくは  
むきくにまゝふあてんあんぞ

大橋の奇事公あ申りてを系たつて次は勤  
とつて申して昔はいつくしうに

大なる人たむの申

去の福を二十九あのおまの事あるれを

むの申の奇事なたるを  
はあんな丸

つりお事の時性うたさつて

火夏の本の人丸焼

あつくと赤板よりも焼けてまがれり焼  
れをあり

人丸の奇事をゆかむしつりて事あり

もあよ昇りたりつりて

あつくと申り

本橋やまの秘事ちのまよめて

秘事大夏の志向ありけり

こゝろりつりつりようはまかたは  
とこまほして世帯小舟をりつり  
はまかたはぬいあのみをれむあり

東明そり

承唐のお城の辰己史とありてよいまみ  
かけせあり

車めがくつたりあらはつて  
後とえと中忌切の

大橋少路のちん

本橋の二つ焼て承唐橋や柳の系に榎は

ちんり奇事をゆしつりて

あつてあつて入た家が

あやけもくし焼所

屋あし律田の焼焼中まいつゆれが子形丸やけ  
万形裏店中店八千張みんちの大焼百年  
め是も焼上の焼後あてあたる法は具焼  
まふつてまをたの海までさらりく

大やけ系を焼とと

一二月十日は度し焼後ま焼結今月初日象尻

沙野有魚 系芝 飛丸

沙能明 初云

三将

為島丸流

三善史

西条持

千歳

仁吉

仁吉

仁吉

仁吉

八重

千歳

千歳

長を序

同

それ困津風まきぬりて生象好法松枝ま子威のま  
と並ぶ奇む筋の毛衣まりてあてたりる付とや

親世ま子  
日徳又序

長を序

長を序

長を序

長を序

長を序

弓八情

長を序

長を序

長を序

長を序

同

長を序

長を序

長を序

末廣り

長を序

長を序

長を序

田村

長を序

長を序

長を序

長を序

長を序

小八



田林 洞

倉谷八之序

栗焼

八之虫 主 流木七之序

羽衣

源七之序 市ノ序 又三之序

沖申入

要飾 六之序 又二之序

金剛寺史子 大友屋物 紅葉物 新之出 尾上之序 又六

洞

仁吉子

七之序 尾上之序 浦井之序 又七之序

一同六口所之家初法史各見物沙神理下

扇

仁吉子 名田七之序

包松

源七之序 又三之序 又三之序

秋大名

八重乃

八重乃

八重乃

八重乃

大藏

八重乃

甚右衛門

又六

福の神

八重乃

あこ

八重乃

大藏又市

東小

親世

久右衛門

中務

長三郎

庄三郎

間

長村

沖甲入

要時

三右衛門

山崎

船

十重乃

長三郎

春日

新九郎

甚右衛門

間

沖

又三郎

六右衛門

甚右衛門

源物

一二月十八日 浩危中 甚右衛門 同嫡子 兼之 同家 頼法 法役人 内書方 于外 見 物 抄 科 理 々 々

二右衛門

仁右衛門

室生主史子

經波

室生主史子

同

室生主史子

新

室生主史子

水谷忠

室生主史子

久

室生主史子

又

又

い

右度

十

六

六

海

六

物

六

法

同

物

海

秋

不

也

福

親

江

同

長

大

長

仁

美

新

又

張

全

久

田

田

同

藏

後

若

若

若

村

後

甚

甚

後

宗

小

依

新

二月十九日 昨日通

肩

三善史

仁右史

尾田七史

东方朔

全刻史

尾田七史

尾田七史

又六史

问

仙人

尾田七史

尾田七史

尾田七史

八情

八史

寶登

六史

尾田七史

尾田七史

问

子高

尾田七史

尾田七史

六浦

尾田七史

尾田七史

尾田七史

问

御才

尾田七史

尾田七史

尾田七史

问

後金札

尾田七史

尾田七史

尾田七史

三月廿一日 日光所門至英哲上寺見物沙料理等

三善 十蔵

仁皇御子 矢田法皇

加茂 中御所下

間法田

八之坐

男乙女

大飛又市

高尾次郎

海老

尾崎法田  
山本清重  
大飛又市  
金谷八三郎  
津林中平  
田文市三郎

兼平

金谷

市

甚左

法皇

間

長十郎

八右衛門

あこ

平野知物

檜垣

源七郎

市

新九郎

庄

大飛又市

河  
松中村  
打母左  
子田金三郎  
田吉海

正字 宗生在吏

新之虫

彦三所

新三所

後進 命因 宗生  
宗生在吏  
宗生在吏  
宗生在吏  
宗生在吏  
宗生在吏  
宗生在吏  
宗生在吏

同

仁篤子

浦井新三所

乱 今春 彦三所

彦三所

彦三所

一二月十二日 勅旨 相海

一因 廿九日 赤刀 光法代 全其 裁

左持極

赤刀 重任代 全其 裁

堀田相換書

右 涉信任 涉兼任 赤用未 勅旨 彦三所

時報 十日

涉意 中方

同 廿九日

同 廿九日

同 廿九日

大島 相換書

同 廿九日

若手 奉命

同 廿九日

同 廿九日

同 廿九日

赤例 宛

同 廿九日

同 廿九日

同 廿九日

行布 鞍あま

同 廿九日

水枕 量 彦三所

辰三 裁

涉中 初

奥 彦三所

右のしは後御とありし

一月三日 伊礼後伊礼之家和法大各所御内月念  
此作知也

寺用をり

お檀者 梅澤者

はるき

市川おきと伊丹を産民

は月

大久保荒しぬり又口戸 社名も本正

宗檀主なり

一月一日 王子のお西京村中横山御後御記の御社を  
お知の御社の本にまき実のころぬおあま毎上る御  
解りありゆきし御社の依り度伊丹を産民なり  
是をきりて各所有り申すも見申す御のともぬ

一月十二日夜八時 日向基子谷所居の御社に火  
大是れをもち抱居ぬ御社を不残焼亡此夜  
村の御社を焼く 寺中にてをりぬりし道  
不とるし不とお志く焼失

一月十九日夜了 楊明地二九は寺法中居の御社に  
焼るは寺法をりし御社に焼失此夜  
寺付の御社馬欠也 怪我ありし 病死也りし  
法中あり

一月廿一日

寺社をりし 善年家

寺社伊丹

西九は側分 寺社をりし 寺社御

寺社をりし 寺社御

一月廿八日

一月廿八日 公方様六十 伊礼御

一月朔日 御 涉讓殿 御出

左方石加増 御

涉布丸 御勅旨

右方石加増 御勅旨

涉布丸 御勅旨

堀田 御勅旨

秋元 御勅旨

板倉 御勅旨

中出 御勅旨

水北 御勅旨

酒井 御勅旨

田沼 御勅旨

中三郎 御勅旨

涉隈 御勅旨

田代 御勅旨

西原 御勅旨

涉用 御勅旨

涉隈 御勅旨

涉例 御勅旨

涉本丸 御勅旨

岩根 御勅旨

水之上 御勅旨

福原 御勅旨

佐野 御勅旨

中三郎 御勅旨

松平 御勅旨

松平 御勅旨

水北 御勅旨

涉中 御勅旨

涉本丸 御勅旨

涉移 御勅旨



一 同廿六日 日光寺門前

中物戸  
徳乃及守  
奥藤原  
中物性  
中物戸  
奥藤原

一 同廿七日 日光寺門前  
一 同廿八日 日光寺門前  
一 同廿九日 日光寺門前

中將 松平 渡邊 守

中將 松平 肥後 守

一 同三十日 日光寺門前

中將 松平 渡邊 守

中將 松平 肥後 守

一 同三十一日 日光寺門前

中將 松平 渡邊 守

一 同三十二日 日光寺門前

一 同三十三日 日光寺門前

一 同三十四日 日光寺門前

一 六月廿一日 雲列坐附 右推法名 瑞祥院殿  
從四位下前雲列大守藤原朝臣忠光義山  
天忠大居士

一 六月十三日 晴 至方園 清移碧

公方杯 二九らは為入

大御所杯 与在杯り事

右大將杯 清中九は為入

上杯 与在杯り事

一 清院杯 二九らは為入 以爲 沙供也り為通

清院杯但 是年高上人供

一 烟門通 沙玄園り 以爲入

清先立

松平右京大夫

一 西九二九し西し 洋幣子中侍

一 二九お浩し西し 於席し 清日見

一 清院向 清上段 忌清 沙廣斗蛇也

右大將 右京大夫 右京大夫 清院中上し次し極

和泉守 酒井石見守 清日見

一 沙極極為清向 清後右射長也

一 清院上段 清後右射長也

一 尚日お佐し西し 清中九 西九下也 撤於席

右京大夫 清院中上し次し極

一 奥向并大奥向 清吸物沙酒也

一 六月廿一日 同廿二日 同廿三日 沙代碧清礼

一因言寺社法礼

一二月期月並法礼市役替

市役代り

市役代り

松平庄九郎

松平根太内記

沼行頼貞

奥伊豫守

奥津左系

法使書

松山伊豆守

徳山次郎

大久保共

角右衛門

本庄左系

中山三馬

右款抄おと作合

一二月十九日二九法書法用是りし面下法

復更

市役定存

一時振了

一及月防書

市役事

一回り

安後陣止

一回り

牧神大隅

市役付

一時振外宛

大久保荒

素信

市役定存

一時振了

小神左

本室庄

市役抄宛

栗小村

一 全砂板

此本在... 勝田 孫三 彦

一 同

勝 子 忠

一 時復全砂板

少 幼 定 虎

但一... 根十枚... 子 和 田 若 子

一 二月廿三日 同 一 巡見 虎 若 人 彦 後 村

一 七月十日 同 一 隅田川 筋 沙 川 村 長 為 成 山

水馬 上 流 有 一 姓 名

此 村 也 乃 本 根 大 日 記 也

粟 毛

原 田 権 全 結

鳥 子 三 月 毛

梶 与 丸 所

粟 毛

同 伊 氏 播 磨 寺 組

中 多 作 冬 彦 所

鳥 子 三 月 毛

同 稻 葉 紀 伊 寺 組

鳥 山 市 刀

君 麻 毛

同 全 田 志 仁 寺 組

野 次 半 平

麻 毛

同 大 久 保 寺 後 寺 組

深 谷 織 部

鳥 子 三 月 毛

同 伊 氏 播 磨 寺 組

伊 氏 冬 彦 所

青

大 中 青 花 房 寺 組

新 助

粟 毛

同 是 於 無 所 組

布 設 寺 寺 満

廿七月毛

大正書箱恒月防書祖  
松平左門守祖右代り

同平親直江守祖  
芝山十左衛門

馬カ子カサ  
ト子栗牛毛

同場大膳尾中祖  
号於筑前守祖右代り  
和田千左衛門

月毛

和馬方立人敬令十八人  
三十八

一七月十日 將軍 宣下府年向一之承危此也人  
以及升

勅使与々  
田村下後守

女院使  
分給集人正

准后使  
池田中務少輔

右三人一子代り  
松平之給少輔

右司殿 天徳寺  
仙石親宗

九條殿 蓮花寺  
祐桑結老吉

右五人一子代り  
岩城伊孫守

右通於帝遣向也位升

一苗秋系向一

勅使 親王使也  
柳系系大納言光綱

女院使 房橋系大納言重胤

准后使 敬波侍使宰相少輔  
石山右系智基老々

市衣紋  
市身固

地下し事

紫木衣  
陰陽象

榎木宮内  
古市門三位

在

壬生 官位

和江方

押中河大内記

在方副使

三宅中務大輔

和江方副使

吉子外左衛門尉

告使

山科 中平

梅家方

有る司在矣  
九條内大臣道宗云

○高時紋を一中袖深衣

黒麻子もつり

丁子葉

今もある物あり  
足して居りて  
丸よりまみ

丸よりまみ

古丸も高時紋  
丸よりまみ

丸よりまみ

丸よりまみ

丸よりまみ

根柢

久保子葉中紋

地の形見せぬ  
事易の足物

く

ゆき

丸 一様初めに足してける

丸 曜とあり 元々様々色くあり

色をよけて何や下されぬ色子ありたつふも  
まや足下れま

丸 子あり とも色

月うたつるもあつた年もせぬと波舟に衣  
紋子よこれかゝる

丸 曜 葉もしりりあせりたるの形色やそ

は初る葉子 似ありあり

丸 子あり 葉は初る葉

各よりてよし今出の障色やそやうは  
しと扱ひる色よしてしりりたる

丸 曜 あせり

中袖まきりりるぬるい色をそよる人あり

角入しかに行まみ さらり葉  
ほろ色らさめほもこやう田舎めいたる  
風あり

一八月五日 市書院海向

日光市書院 法文代 酒井 雅集氏

市書院縁頼

大河所極  
日光伊呂分

柳原或於大浦

日光伊呂分

中多隈岐書

伊勢

白田飛澤書

六角伊豫書

右將軍 宣下取決以白鳥也合内記中列我

但馬守中連

直方法為役

市川信房書  
市川對馬書

後箱

河原伊豫書  
市川梅村書

右通但馬守中連

八月七日

大河所極伊移留和 市原与付於大慶同  
市原卷伊移留和 市原与見物津帷子亦亦  
市原入前八時五打海

伊呂分

三將之善見

市川守

市原 伊呂分

市川守

福の神

仁右衛門

後取力貞成 伊呂分

市川守

三秋大老

市川守

市川 伊呂分

市川守

市川守



後良 <sup>十</sup> 七 又 <sup>二</sup> 三 爲 <sup>六</sup> 八  
 後 <sup>大</sup> 云 <sup>義</sup> 全 <sup>美</sup> 札 <sup>南</sup> 十 <sup>所</sup> 十 <sup>所</sup>  
 後 <sup>也</sup> 云 <sup>下</sup> 札 <sup>下</sup> 十 <sup>所</sup>  
 後 <sup>七</sup> 云 <sup>七</sup> 札 <sup>七</sup> 十 <sup>所</sup>

一八月九日薄井仙臺町東友所傳申西東之氣村百性  
 源文之十者松平本換与低代傳召也  
 以付於彼地死氣退言此片在河野舟山陰島上  
 本換与未若年一付現於松平兵庫以借氣  
 後与不念一飲七位後本換与家本兵百性  
 涉仕至出劫定在切稻生下地与世一伴与了知  
 一少於中七月十日病死仕以有海月一創七不中成

宝曆十一年辰年一

一二月

去所一及油坊  
 為名法五百之下  
 中書付入与和

一編一

中書與元子中書  
 稻生与与与

松平本換与家本

江戶拂  
 拙以与放三十日押也

年中進放

目付役与放

与和地

在及源屋

冥 借与

名倉 少年

与中 少年

竹村 中書

估地 与与

井上 与与

家名假名取  
字曰押也

多如也

字曰押也

持也

多如假名取  
字曰押也

多如也

池田平兵衛  
池田徳吉

蓮花寺浄次

山田玄右衛門

大塚久重

尾井多助

尾本元三郎

河田久重

河地利右衛門

尾村多仲

下村多利

尾村多仲

百姓

尾平次

尾右衛門

尾右衛門

尾右衛門

尾右衛門

尾右衛門

右通於淨念所長中流

山代友

淺井作左衛門

伊豆百姓

尾平次

尾平次

尾村拂

尾上高  
門拂

尾村拂

尾村

是

- 一 子年二月午ノ日 亥をこれの三年ノ内死
- 一 丑年二月寅ノ日 辰死
- 一 寅年三月己ノ日 十年ノ内死
- 一 卯年四月申ノ日 辰死
- 一 辰年十月戌ノ日 三年ノ内死
- 一 巳年年中ノ日
- 一 午年十月午ノ日 辰死
- 一 未年十月子ノ日 辰死
- 一 申年十一月子ノ日 辰死
- 一 酉年六月酉ノ日 辰死
- 一 戌年二月卯ノ日 辰死
- 一 亥年二月己ノ日 辰死

右長長傳傳田久々を及大信國ノ人ノ事トシて  
 此書付おし以後為市權死罪ノ事トシて右長  
 長傳傳ノ如ク其長遠何歳申来ノ申傳ノ為万民  
 由ノ備ノ述尚十年ノ事トシテ觸有ノ事傳中  
 筆系ノ代友ノ方後傳ノ辰ノ觸書ノ列衆申  
 傳相ノ事トシテ地トシテ申ノ事トシテ  
 日ノ事トシテ

辰八月

- 一 右ノ事付長傳傳ノ事申ノ事トシテ
- 一 八月亥ノ日 傳奉死 筆堂上方今日刻  
 一 九月二日 己上刻 大庭岡 出所

將軍宣下 涉親式 未し別抄所

勅使

柳原宗大納言  
唐橋宗大納言

公方様  
禁裏  
御左刀目録  
黄金三枚

如院より  
御左刀目録  
黄金三枚

大所所様  
御左刀目録

如院より  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

自のり所礼

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

右内  
浪子代

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

御左刀目録  
黄金三枚

右將軍 宣下為河越後於大廣間  
河村親 未渡且捕家門法方于外使去  
大徳力あり

一程き有宛

勅使

後

前田信濃守

女院使

後

堀川基經

河村親 未渡且捕家門法方于外使去

同

日

日人

九條 内大臣殿

同

右將軍

宣下お海河の舟はき

一日。河越後親と信長と有る

勅使の旨於河越後親と河内中列座右と河越後

河越後親と河内中列座右と河越後

一伊勢 日光 河越後親と河内中列座右と河越後

一九月六日今日公家院河越後親と河内中列座右と河越後

河越後親と河内中列座右と河越後

三羽

三善変

河越後親と河内中列座右と河越後

河越後親と河内中列座右と河越後

河越後親と河内中列座右と河越後

史君の代を河内中大村の北百性といひて

あきけ時の天在月の氣となりぬ縁し又

老松 知世さま 同日 河越後親と河内中列座右と河越後

東下

八重門

八幡 大飛 久草

助九所  
控九所

志三

いくろ

海老

東下 今 志三

市斤  
法

志三

御中入

鞍馬 十 新

志三所  
新九所

志三

又

志三

志三所  
志三所

志三所  
志三所

一 同日 勅書 出云家 虎 涉 服 上 侍 出

二 系 部 涉 使 涉 服 上 侍

金百枚

井伊 掃部 頭

金印十枚

高山 紀伊 守

一 同日 昨 宿 司 殿 平 川 右 衛 門 大 奥 小 卷 二 官

涉 卷 標 涉 射 部 長 持 印

一 同日 有 六 兩 口 涉 侍 習 一 所 礼 丈 故 布 衣 素 袍

子 介 仕 装 束 奉 給 一 通

一 神 田 祭 礼 有 一 一 橋 涉 門 上 書 所 出 為 七 九 條 殿

宿 司 殿 出 見 物 有 一 通

一 同日 十八 日 之 夕 日 ぬ ぐ 涉 礼 有 一

一 同日 下 將軍 宣 下 上 為 涉 為 涉 従 儀

河之家和法大各見物一沙律也

沙律但

三府三青史

八在案

巧八情

在案

在案

在案

麻生

在案

後

在案

久以在

在案

飯猿

在案

羽衣

初世在

在案

在案

在案

是男

在案

在案

在案

後

在案

在案

在案

在案

金丸

一因在之日

右同以之付法

後人見物

一沙律有

沙律但

三府三青史

仁在案

羅波

在案

在案

在案

在案

在案

寶盤

在案

在案

在案

在案

枋山依

在案

芭蕉 十丈  
 古松 金唐  
 福云 藏  
 景板

久右衛門  
 光右衛門  
 藤右衛門

光右衛門  
 法右衛門  
 光右衛門  
 光右衛門  
 光右衛門

藤右衛門  
 藤右衛門  
 藤右衛門  
 藤右衛門

一回方骨 右回り 二舟 法役人 見物 山麓

三羽之吉 叟  
 竹生 傳 十丈  
 八情 年

久右衛門

法右衛門

光右衛門  
 光右衛門  
 光右衛門  
 光右衛門

藤右衛門  
 藤右衛門  
 藤右衛門

破階 十丈  
 清水  
 建部 金剛  
 馬帽子 抄  
 祝云 又  
 景板

六右衛門

源七

新之丞  
 藤右衛門

助九郎  
 市右衛門  
 新九郎  
 新九郎  
 新九郎  
 新九郎

小八

又六  
 又三  
 又三  
 又三

一回方七日 日光御門  
 一回方八月 増上寺  
 一回方九月 在月り舟 日光御門 増上寺

御礼有  
 御礼有  
 御礼有



見物 山能但

二府三書史

加系 全別史 簿書

三本柱

知三章 或古序 簿書

通象

然神 簿書 簿書

石橋 記世書

石橋 同

久書

仁書

長序

簿書

六序

八書

法書

帝書

余書

八

又六

又三

古書

祝文 七書

言抄

二書

飯書

源抄

一九月廿四日 坊上寺 淨佛流

一十月二十日 淨代君 舟 山王下 淨成女書付

長為成田村也 還淨 殿中 曆中 月 曆上 下

中書刀

侍書七枚

時復 馬

一疋

時復 五少

神 樹下 氏 氏

一十月十日 成均場為退多相 所成 瑞鳥 啓子

一十月七日 大所祈極清水 涉鏡之 為成

一十月四日 乙方極清水 涉鏡之 為成

一十月六日 今夜口時 延延所 初火之 神所 司 爲成

一十月六日 今日宮内 々殿 祈 爲成 之 爲成

一十月四日 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一十月四日 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一十月三日 加判判 祈 爲成 之 爲成

一十月三日 祈 爲成 之 爲成

寺社 祈 爲成 之 爲成

一 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

一 依傍 由金 寺 祈 爲成 之 爲成

但聖年瑞府... 燒矢... 井谷

大元 十人組... 松平... 長...

二月六日... 神田... 松平... 燒矢...

二月二十日... 神田... 松平... 燒矢...





福少家跡 信儀少松屋少 蜀方少 一庭少 坂布少 足  
江少 坂島 松屋少 伊江少  
松平傳 赤野 法答 守女 正 坂口 長安 一 信儀 赤野 守女  
赤野 有 賢 長 三 房 迎 友 長 三 信 大 平 權 六 序  
淺井 平 八 少 堀 古 依 少 嘉 安 秋 多 文 元 田 大 和 少  
秋 葉 少 官 稻 垣 村 馬 吉 松 平 伊 豆 少  
越 井 少 中 信 少 大 信 少 小 川 少 藍 川 少 松 平 八 信 少  
通 了 石 強 人 永 代 寺 八 信 社 三 強  
三 松 三 同 堂 少 孫 入 松 少 別 傳 少 同 每 天 一 社 内 三 燒  
局 見 東 一 方 少 中 信 少 追 燒 八 南 一 方 海 一 追 燒 八  
七 口 内 三 別 傳 八  
一 所 教 百 少 松 三 少 一 庭 安 少 山 更 八 松 一 刻  
一 寺 教 山 十 少 八 刻

寶曆十一年己辛

一二月加判尻場田相模寄 正亮 奉去  
一二月在二二日津代替 涉信令長 作出  
一因方女日涉信令長用是了 涉信更長下  
於涉信 同涉刀 備前幸光 但馬守 世光  
於陸去をよ下  
時板何ッ  
同三ッ  
林 大 子 氏  
同 内 記

同三ッ  
同三ッ  
日向若重  
長坂忠七序



一月十日 於吹上 百の的 上後

一月十日 於伊豆書院 糸部 六角堂地坊  
之元 上免 多托し

一月十日 大塚 於後地院 元之也 法人 及 相  
有し

一月十日 末方 於二丸  
大所 所稱 先の御軍 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 今夜 丑辰 刻 農所  
伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋

一月十日 伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋  
伊不橋 伊不橋 伊不橋 伊不橋



一六月十日 奉教 急使 此度 所官位 所院号

松平左衛門 伊予松平守 伊予松平守 伊予松平守

右内右衛門 全沙 松平守

一六月廿八日 尾張中納言 宗勝 於尾張遊去

一六月廿七日 伊予松平守 宗勝 於尾張遊去

一増上寺 寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

寺名 伊予松平守 伊予松平守

松平丹波守 吉井伊勢守 西尾 輝正 大島 玄彦 次

○ 津出権し 津道 固々

大名 危 二十 少人 内 板 安 依 海 守 田 沼 主 殿 以 少 人

初 舟 未 効

○ 下 向 し 三 家 危 出 押 乞 大 名 危 六 人

津 佐 出 羽 守 黑 田 甲 斐 守 信 守 安 房 守

本 下 大 和 守 九 鬼 五 守 大 岡 伊 勢 守

一 七 月 十 日

大 所 所 極 津 出 権 也 八 時 分 津 守 休 是 八 半 時

平 川 兵 衛 門 近 兵 衛 人 津 取 権 有 し 吏 守 有

津 出 権 之 中 兵 衛 門 津 出 兵 衛 守 上 守 守 有

津 守 守 津 守 守 津 守 守 津 守 守 津 守 守 津 守 守

津 守 有 し 普 六 時 比 場 上 守 上 津 守 兵 衛 門

倉 本 守 堂 兵 衛 門 近 兵 衛 入 吏 分 津 守 廟 兵 衛 入

大 村 色 本 所 兵 衛 門 守 中 方 場 上 守 守 守 守 守 守 守

一 津 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

津 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

場 上 守 守 守 守 津 守 守 守

浪 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

場 危 津 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

全 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守 守

二 所 守 守

右谷子服を切やとよひに返してやめて安夜厚正

判し物

大所所 トキ 〇真て

増上寺 〇辛ハ

くくむ 〇修名

御の本

お此方の少部は江戸所我を引さよと返被にま  
腹川柳打小後存火の用んよおと種所種く  
おおのまお遠あさる自身書あんこつと月て  
家い

琴瑟彈罷夏日長

畫龍棺擲芝山行

鐘鳴願道吉祥閣

羽抄鼻高僧正房

十八檀林皆撲古

三千大衆大肥腸

苦房本尊自成悦

錢程忽阿弥陀光

先年残念今年帰

且見緇衣変錦衣

奢哉々々魚鳥會

一山震動花品河

新むぐんのう

身にきておめんたいをさうり

田沼全殿氏

おめんたいをさうり

支所存行

おめんたいをさうり

酒井左衛門尉

おめんたいをさうり

二丸は中姓

おめんたいをさうり

勤善一丈名

細川輔中守

いづし世にあいそひまて  
さうもあらねば  
けよにふちにぬおらひの  
こころけり 後とてふ  
さゆりやうまはさゆり  
んまきやゆのうひ  
花より後とれは名を  
花いけはさうこやとのま  
くもりかち成 女ふまの  
んいりやうのう  
あねいらふ合さるまに  
まの命もたずあきとれ  
あみまはけしけり坂

お終身  
山ま奈礼  
上野  
天石院  
西田寺  
塔上寺  
酒井方  
金子  
沙内院  
田沼  
西田  
加茂  
忠

くろの夜  
凡の便  
あや  
ゆて  
西  
まな  
後  
ま  
く

稲  
阿  
二  
安  
東  
上  
塔  
右  
知  
越

〆ニウ身ハモロ  
 ちれいつくはけらるる書に  
 年子の命も  
 ささい限りとせられ  
 後にくけーきい板  
 ちおの夜の面  
 ちる夜もろ一月あつーや  
 凡の便子ち種の間  
 あつーきんていつのめせし  
 あけてそこれねらるるまに  
 西もち種とち年のも  
 りりちよーはし

尾張  
 如及仙者  
 田沼主殿  
 長聖院  
 松信  
 清水  
 田安  
 可橋  
 紀伊  
 水戸  
 車橋  
 山内院  
 長聖院

〆年の年々しあ役よとめつてあんきのかのこ色  
 さめくもまわしてささいのおやーきこーして二年  
 流よりそ一書をささいにだたけてきーして  
 けこのふあつちふあつち子限居ははけられちり  
 はとひーお後おのの西尾をくくさりもあや  
 のあつーあやもあんきーお様も早めりるる  
 且年の病守の年々もみ 車のあははははははは  
 まるやいあややとあぬのあんきー金ていけあひ  
 あんたてあやや又さふさる且ねもさあさ  
 今年い役もあんきーあるのらあめくあは  
 ちあてしかあさもわーあさあさいあは  
 らんたを鳴物信々所いぬれらとさあは  
 しもあんき止あつちりささいいんき  
 いあないあんきささい中もいあはあは

何れも切あんなる人たるを其の所候も大なる見  
とていふにそのいふもあつていふたをいふ  
はるもその所候もあつていふ

あつてもいふす長のとらふ  
よひ殿とていふる方の家の男

此のいふに伊豆の男  
石谷とていふる酒井と 安成も

知つたてて 信濃のいふ

一 七月十二日 初御日 御申候 公法役人 花  
尚書法 尚書 虎 赤目 見 以下 法 虎 建 名 儀  
赤 草 子 長 子  
一 同 十 二 日 於 坊 上 寺 赤 法 寺 祝 廿 七 日 迄 也

一 七月廿四日 沙贈号 勅使 醍醐 前内大臣 兼 紫

女院 使子 種 宰相 中 有 補 親 王 使 万 里 中 法 友

大 弁 宰相 齋 房 唯 后 使 極 々 三 位 老 康 宣 余

使 子 辻 中 法 世 長 下 向 割 云

一 大 所 所 抄 沙 院 号

信 信 院 抄 女 子 移 事

一 七月廿四日 夕 夕 夕 雨 降 雷 云 亦 石 川 也 牛 也

神 田 下 所 口 谷 一 抄 所 也 教 十 下 所 也 所 也

一 同 廿 六 日 乙 子 院 坊 上 寺 法

一 同 廿 七 日 同 所 抄 順 上 抄 有 同 廿 八 日 法 友 也

一 同 廿 八 日 乙 子 院 坊 上 寺 赤 法 寺 所 法

一 八月 廿 日 赤 中 院 所 法 友 名 年 外 也 抄 上 生 綱 也

一今日西九附一西一此後海有し

清中 杉年右至事

清中丸中事 末座此後付し

若年寄 (香后伊勢守 酒井右見守)

厚一問法 此後付し

一外不後中丸勤 大方此後付中中付此中人組  
不後中丸勤 所書院書 不後中丸勤 此後付中丸勤  
あり 刻中書也 刻組

一要向中し 清側 此用中丸次 杉系 純中中付此中事  
此後付中丸勤 右 此中丸勤 此後付中丸勤 菊一問法

一此中付中丸勤 一月 此中丸勤 此後付し

一同以丸次 茲發一丸中 此中丸勤 酒井伊勢守

大是主水正 此浦中丸勤 同後丸厚也 津田伊勢守 牧地  
之書中備 酒中丹後守 津田口守 堀尾也守

一西丸中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤  
此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤

是向中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤  
右中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤

一是向中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤  
是向中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤

右中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤  
但馬守

日七ッ 持付也  
日六ッ 至殿以

一此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤  
此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤 此後付中丸勤

一女中しかり

○し年寄

若福

○内申老 小尾 加橋。○し次し尻多世 二為たり  
○しとし同 老井。○し極し同 念為 三世たり  
右 清中丸トしるりか

○し次し尻 けちせりあ 月々 月々  
○し極し尻 月地 月々 月々  
○しとし同 せよ せよ せよ  
○し申を せよ せよ せよ

右し極し尻 せよ せよ せよ  
○し年寄し尻 せよ せよ せよ

口々 月々 月々  
○し申を せよ せよ せよ  
○しとし同 せよ せよ せよ

右し月尻換し附人

○し年寄 小牧 柳山

○し若あしり 徳川 徳川

○し申を 三子 三子 三子

○し極し尻 少柳田 福井 奥津

○しとし同 河田 戸川 政井 打井 家

○し申を 長海 花桐 五里

○しとし同 六人 月々 月々

右判髪長し尻

○常春二月十日 浄土祖師高光左師の百十年



為分事於 智恩院 勅使 惠成之 二文字 賜也

一月朔日 晴 定判 系 壽娘君 孫 涉 徳生

一月夜九時 晝夜 化伊 玉垣 下 所 取 小 火 中 風 之 出 廣  
出 後 厚 御 行 櫻 志 守 打 火 至 研 板 之 所 方 法 。

一月七日 夜 涉 夜 儀 差 月 杉 年 隱 傳 守 之 爲  
良 力 杉 年 神 中 守 之 良

一月十七日 夜 九時 大 風 向 之 出 水

一月廿七日 成 申 判 之 之 坂 少 判 人 歎 至 舟 下 如 火 之  
隣 街 村 之 方 爲 之 岳 打 火 之 物 人 慘 窮 人  
苦 耐 之 法 也

一月十八日 杉 年 信 傳 守 宣 茂 室 遊 去 源 娘  
故 利 根 娘 君 孫 涉 如 之 三 日 以 物 儀 止

一月廿一日 廿二日 萬 石 之 上 涉 兼 守 下 下  
足 代 爲 存 在 所 爲 申 判 日 麻 之

一月廿七日 所 兼 守 下 抄 出 爲 負 之 下

涉 刀 代 令 守 枝 方 爲 耐 涉 刀 杉 年 和 信 守

根 古 枝 侍 儀 之 林 太 子 以 日 待 何 也 十 三 日 下

日 以 日 以 日 以 日 以

時 候 之 變 是 古 兼 守 上 氏 向 井 庭 爲 乃 因 以 之 上 村 後 以 守

全 之 故 兼 守 之 氏 山 中 傳 守 之 全 以 存 之 兼 守 守 於 兼 守 守

一月廿四日 萬 壽 娘 君 孫 涉 門 庭 生 山 後 儀 涉 徳 守 高 善 切

足 知 之 作 付 也

一月廿七日 成 年 時 允 伊 中 物 之 未 知 之 涉 女 勝 娘

杉 年 如 聖 守 重 基 入 樂 乃 兼 守 善 守 信 守 之 高 善 切 儀 止 儀 止

一 土月 沙月 付 之 校 市 力 少 秘 定 以 應 設 少 野  
左 邊 更 用 用 舟 大 板 表 示 之 也 一 所 寄 以 契  
津 德 寺 之 寺 之 合 少 々 一 傳 此 所 人 亦 上 所 用 金  
少 付 付 一

云 上 市 一 札 一 事 一

一 此 度 未 相 協 給 以 用 給 之 一 諸 一 金 子 之 在 中 之 札  
之 為 仰 付 之 向 海 改 之 之 作 價 一 不 存 仰 之 札  
右 之 出 之 金 子 一 割 中 之 仕 之 近 一 沙 之 入 仕 之  
沙 大 名 拂 方 亦 用 金 少 川 一 無 惱 一 高 砂 之 入 仕  
少 亦 取 札 金 銀 之 隨 分 渡 之 行 通 用 一 且 札 之 仕 之  
此 段 之 所 遠 之 一 之 札 之 仕 之 方 寄 長 之  
一 沙 德 院 文 少 付 一

宝曆土 年 乙 年 十二月

乙 十二月 十二日

云 万 有 人 云

今 楊 少 丁 日 傳 州 号 在 矣

多 藤 楊 少 丁 日 飛 後 分 号 在 矣

上 京 府 代 助 之 序

日 有 君 少 布 衣 十 二 序

和 泉 少 臨 代 之 札 物

吉 妙 少 屋 已 之 名 矣

御 所 之 人 与 之 情

云 万 有 人 云

日 有 丁 日

平 井 之 序

日 有 丁 日

仲 之 序

日 有 丁 日

隆 之 序

玉 水 丁 如 傳 之 札 物

和 泉 少 御 所 之 札 物

和 泉 少 御 所 之 札 物

介橋より下目

坂田佐左衛門  
仲判武三郎

三番橋より下目

橋本清重  
細川宗久

平下目

加賀守与重  
他由代  
新三郎

白橋より下目

大庭也次郎

三万六千両

三番橋より下目

津屋九郎  
由代  
新三郎

日所

岡山伊左衛門  
由代  
新三郎

日所下目

能地尾平八

上又所

三上久右衛門

道徳所

川橋尾清重

平野所

白根尾新三郎

三上

三上久右衛門

由代  
新三郎

日所下目

伊豆尾新三郎  
由代  
新三郎

道徳所より下目

加賀守与重

橋本所

和泉尾利三郎

日所

橋本市三郎

海蔵所

中尾八三郎

三上

小西吉右衛門

安堂所より下目

大和尾利三郎

介橋より下目

日所尾新三郎

日所下目

三上久右衛門

日所下目

日所尾新三郎

日所

橋本尾仁右衛門

玉右所

加賀尾信重

三上

大和尾新三郎

石橋より下目

志布子尾新三郎

三上

石橋より下目

和泉尾吉右衛門

日所より下目

三上久右衛門

口所

三上久右衛門

平野所より下目

三上久右衛門

日所 日野分七有集

吉野分 本津也七有集

船所 助松也七有集

本所 山丁目 衣分七有集

湯分 吉野分七有集

日所 内田分七有集

南野分 海分七有集

三帝場西所 藤原分七有集

日之山目 多良也七有集

白所 岩井分七有集

日所 松原分七有集

新野分 吹田分七有集

藤原城中所 清分七有集

九有集所 小村分七有集

日所 本所分七有集

一山書左通 山分七有集

久橋三丁目 吉方分七有集

又三人

日所 河内分七有集

又八分 平野也又七有集

日所 湯分七有集

百所 平分七有集

道修所 湯分七有集

日所 山丁目 衣分七有集

日所 海分七有集

堂傳到地中七有集

梶本所 播分七有集

本橋分七有集

日所 丁南分七有集

又八分 大和分七有集

无七有集所 清分七有集

日所 清分七有集

和泉分七有集

无高所 山丁目 海分七有集

谷分 全分七有集

日所 吉野分七有集

六千五百石

初天浦町 宛多分五十七石

小野町 宛多分五十三石

上ノ庄町

半庄分五十二石

九ノ郷町

天王寺分五十二石

中津三丁目

源分五十二石

南浦町

河内分五十二石

高瀬橋三丁目

寺分五十二石

北町

高田分五十二石

小津三丁目

坂分五十二石

伊勢町

平井分五十二石

紀伊町

山家分五十二石

播磨町

陸分五十二石

大正八年

三千五百石

仲瀬町

高田分五十二石

高瀬町

律分五十二石

淡路町三丁目

砂分五十二石

女夜町

米分五十二石

日三丁目

通分五十二石

及摩町三丁目

色分五十二石

高橋三丁目

河内分五十二石

九ノ郷町

河内分五十二石

高瀬橋三丁目

紙分五十二石

新津町

此松分五十二石

平井町

中高長分五十二石

北町

本庄分五十二石

通津町

律分五十二石

高瀬橋三丁目

坂分五十二石

坂分五十二石

上人町

天王寺分五十二石

淡路町三丁目

金分五十二石

平井町

高瀬橋三丁目

初天浦町

高田分五十二石

高瀬町

和泉分五十二石

平井町

河内分五十二石

高瀬橋三丁目

律分五十二石

淡路町三丁目

中西角分五十二石

口戸 近江守長尾

日守守所 仲尾守三喜

掩事所 尾端守市喜

平井守山日 小山守吉三喜

子藤守山日 守尾依三喜

系藤守山日 伊勢守久三喜

小久守山日 守尾守右三喜

中津守 平井守吉平

介藤守山日 尾守吉三喜

西守所 河守守吉六

介藤守山日 平井守又三喜

上人守 池守次三喜

尾守山日 助松守三喜

尾守山日 加守也七三喜

尾守山日 尾守吉三喜

尾守山日 尾守仁三喜

尾守山日 尾守三喜

尾守山日 平井守三喜

尾守山日 布守吉三喜

尾守山日 尾守伊三喜

尾守山日 若林守三喜

豊守利地三喜

日守山日 尾守利三喜

尾守所 尾守三喜

日守山日 加守也三喜

尾守所 尾守三喜

白守山日 大塚守市三喜

口戸 平井守法三喜

尾守山日 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

口戸 尾守吉三喜

口戸 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

口戸 尾守三喜

口戸 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

尾守山日 尾守三喜

南河内三月日  
河内分五卷

正月廿日  
赤用片 作人 教在通

水方支  
三万支

平野河内三月日  
泉分五卷  
橋上河  
中橋分利卷  
多相分三卷

子澤河  
綿分伊卷

平野河内三月日  
泉分五卷  
水方支  
三万支

備後河内三月日  
池分利物  
津分九卷  
寺傳分地中三月日  
今傳分十卷

六六人

備後河内三月日  
三子多左通  
河内分五卷  
船所  
泉分五卷  
河内分八卷  
松分安卷  
水之卷分五卷  
有卷分

白子河  
綿分武卷  
橋通河  
坂分七  
中河内三月日  
紀分又卷  
世分  
水河内三月日  
河内分代卷  
平野河内三月日  
海分台卷  
百石河  
池分五卷  
南河内三月日  
寺之卷三卷

全石所 大坂全又源序  
但谷所 櫻屋九之坊

丁之石所 川邊屋市之坊

山車所 山中屋源之坊

山車所 河内屋源之坊

山車所 同治屋源之坊

山車所 八幡屋源之坊  
山車所 大和屋源之坊  
山車所 麻屋源之坊  
山車所 備後所源之坊

本所源之坊 奈良屋源之坊  
備後所源之坊 南久所源之坊

備後所源之坊 備後所源之坊

備後所源之坊 備後所源之坊

備後所源之坊 備後所源之坊

備後所源之坊 備後所源之坊

備後所源之坊 備後所源之坊

山車所源之坊

山車所源之坊

右周全と源序之山車所源之坊

是

一 未在場 候三所 于方九 右周全 候付 各之校  
下乃 山車所 源序 之山車所 松平 田 防 署 殿  
江平 表 出 仰 頼 候 依 此 及 下 備 後 所 周 防 署 殿  
右 長 平 山 車 所 源 序 之 山 車 所 源 序 候 付 候 依 此 及

其 加 山 車 所 源 序 之 山 車 所 源 序 候 付 候 依 此 及  
十 日 限 迄 山 車 所 源 序 之 山 車 所 源 序 候 付 候 依 此 及

己十二月 終了 在 京

右 山 車 所 源 序 之 山 車 所 源 序 候 付 候 依 此 及  
七 十 人 内 山 車 所 源 序 之 山 車 所 源 序 候 付 候 依 此 及

山車所

山車所



徳吉吉標後宅下中下出子所し一債甲乙金金  
多ありふくは債とぬいひは作然凡在通

一即千二支 月千三百七拾五支

是ヲ 買米債根は終付を二拾月一合  
お場ノ

一五百八拾二支

是ハ債付金と名目ヲ付何家ハ債付  
の中心有を利是月 砂来する 是出子  
こは終付子所しハ 債より進んき寄事進利是  
お對とハ債中台 此使用ハ右買米方買  
智く序扱仕手介 ぬけ来申一 扱毛ヲ入  
金ハ根は終付ハ

一在金子所しふ事然ハ 院文、其根毛ハ申中名商

此所り山所し一町人 惣代りて十人山人 長年寄  
中取の多一大板上ハ惣年寄申一月一合とある  
て右所用銀り、此右知りの上今そ以上六人  
と奥下を根とて 院法役不は債、其おぬ  
一在金子所とぬ、所しハ組南組天満組合とハ  
申、甲乙と急ととも小組終所しハ大方金金  
砂千二支と文台お根とと支度債根とぬ、あ  
度は買米とハ債付金とある根は有しハ子飛  
来しハ所し、申りてハ是所、そ六百とあるは  
由承傳、未細ハ秘知、

一古買米切ももお根と、由役不ハ持年終ハ  
由付下とぬ、又ハ由債金千後子一 院文、

致公和長任酒造之務出致法方之借新奇  
等一右系合不此書不合同此危之是此見分  
之此出對也



右外書物也一有也中事繁多矣略

